

ハルビンー大連高速鉄道が開通

●富山県大連事務所 所長 油本 達義

はじめに

2012年12月1日、ついに中国東北三省（遼寧省、吉林省、黒竜江省）を縦断するハルビンー大連高速鉄道（以下、「哈大高鉄」）が開通しました。旅客専用鉄道で営業距離は921キロ、沿線には23駅が設けられています。設計時速は350キロですが安全のため冬ダイヤ（12月1日から3月31日まで）は時速200キロで運行しハルビンー大連間を約5時間半で結びます。なお、夏ダイヤ（4月1日から11月30日まで）は、時速300キロで運行し同区間が3時間余りで結ばれる予定です。2007年8月の着工からわずか5年余りでこれだけの巨大プロジェクトを完成させてしまうのですから、やはり中国の発展のスピードには驚かされます。

哈大高鉄の開通により、従来の在来線特急列車ではハルビンから大連まで約9時間半もかかっていたものが、約半分から三分の一にまで短縮されるわけですから、東北地域の主要都市間の時間的距離が飛躍的に縮まることになります。今後、哈大高鉄を利用したビジネス客や観光客が大幅に増えることが見込まれ、東北地域の経済発展がいっそう加速することが期待されています。

また、大連の日系企業関係者の間でも哈大高鉄の評判は上々で、従来、瀋陽への出張に社有車を利用していた企業の多くが哈大高鉄の利用に切り替えたようです。では、哈大高鉄の開通でどれくらい便利になったのでしょうか。



哈大高鉄「和諧号」先頭車両

大連ー瀋陽間の所要時間が4時間から最短約1時間30分に短縮

遼寧省の省都である瀋陽は大連から内陸に400キロほどの距離にあり、これまで大連から瀋陽までは、「特快」と呼ばれる特急列車で4時間余りかかっていました。しかも遅れることもしばしばで時間どおりに到着することは滅多にありませんでした。これが哈大高鉄の開通により、所要時間は冬ダイヤでは約2時間20分、夏ダイヤでは約1時間30分と大幅に短縮されることになりました。しかも時間もほぼ正確でダイヤどおりに到着することができます。

1日の運行本数が3本から約40本に

また運行本数も大幅に拡充されました。これまでの「特快」は早朝、昼間、夕方に各1本しか運行していませんでした。このため4時間の移動時間を考慮し現地での活動時間を確保しようとすると早朝の列車を利用するしかなく、また時間的にも瀋陽で一泊しなければならないなど出張日程にもおのずと制約がありました。一方、哈大高鉄は、大連ー瀋陽間の場合、1時間に約3本、1日なんと約40本も運行しているため、出張日程も自由に組みやすくなり、夏ダイヤになれば日帰り出張も十分可能となる見込みです。ちなみに、大連からハルビン行きは1日15本、長春・吉林行きは1日9本運行しています。

座席は3種類、乗り心地も良好、車内設備も充実

哈大高鉄は8両編成で定員は約550名、全席指定（禁煙）で座席は特等席、一等席、二等席の3種類があります。特等席は飛行機に例えるとファーストクラス席のようであり、1号車と8

号車の先端部に各8席しかありません。また一等席や二等席からガラスで区切られた独立した空間になっており、シートも体全体を包み込むような贅沢な仕様となっています。一等席は横に4席（通路を挟み左右に二人掛け席）、二等席は横に5席（通路を挟み左右に二人掛け席と三人掛け席）で、二等席の方がややシートが小さめです。しかし列車自体が揺れが少なくシートのクッションもしっかりしているため二等席でも十分快適に乗ることができます。また、いずれのシートにもテーブルがついており日本の新幹線や特急列車とほとんど違いがありません。日本では付いているのが当たり前のテーブルですが、これが画期的な進化なのです。実はこれまでの特急列車の座席は四人掛け向い合わせのボックス席しかなく、テーブルも四人で共有するには小さすぎる中途半端なものしか付いていませんでした。仲間同士の旅行であればボックス席もよいのですが、1人で出張に利用する場合は、見知らぬ他人同士が何時間も顔を合わせ続けることになり気まずい時間を過ごさなくてはなりません。また小さなテーブルではパソコン作業もできないため、ビジネスにはとても不向きな列車でした。

一方、哈大高鉄はテーブルに加え座席の下に電源コンセントまで設置されておりパソコンや携帯電話の電源に利用できるなど出張時も快適に過ごすことができます。

さらに哈大高鉄には食堂車もついていて簡単な食事やコーヒーなどの飲み物も提供しておりトイレも清潔で設備が充実しています。



1号車と8号車に各8席しかない特等席



座席下の電源でパソコンも使用可能

運賃も割安で競争激化

これだけ利便性が向上したにもかかわらず、運賃も比較的割安に設定されています。大連北駅～瀋陽北駅間の運賃は二等席で119元（1元＝約15円で約1,800円）、一等席で190元、特等席で213元となっています。同区間の従来特急列車の運賃が87元だったので、二等席で約1.4倍、一等席でも約2倍程度と割安感があります。

【運賃表（冬ダイヤ期間中）】

（単位：人民元）

区 間	二等席	一等席	特等席
大連北～瀋陽北	119	190	213
大連北～長春	215	343	386
大連北～ハルビン西	285	456	513

ただしこの運賃は冬ダイヤのもので時速300キロ走行となる夏ダイヤの運賃は「スピードに応じて調整」される予定となっています。冬ダイヤが時速200キロ走行なので夏ダイヤのスピードは1.5倍になるのですが、運賃も1.5倍となるのでしょうか？

ところで安くて速い哈大高鉄の開通により他の交通機関に影響が出ています。これまで大連～瀋陽間を一日23便運行していた高速バス会社は、運賃を片道129元から片道84元に大幅値下げするなど早速対策を取り始めました。しかし哈大高鉄の所要時間が約2時間20分なのに対し、高速バスのそれは5時間以上もかかるため、結局、大幅な減便を余儀なくされたようです。

大連駅と大連北駅

大連から哈大高鉄を利用する場合は、従来の大連駅と新駅「大連北駅」のいずれかとなります。1日40本ある列車のうち、そのほとんど(34本)が市内中心部から車で30分ほどの距離にある大連北駅発着です。大連北駅は地上2階地下1階建てで空港ターミナルビルを思わせる近代的な巨大建造物で、2階が待合いロビー、1階が乗車口、地下1階が到着ロビーとなっており、各階に切符売場があります。広大な待合ロビーには4,000を超える椅子が並べられておりその数に圧倒されます。またミニスーパーやファーストフード店、土産物店等もあり買い物にも便利です。



広大な待合フロア（大連北駅）

なお、市内から大連北駅までの移動は、路線バスも走っていますが時間がかかることもあり、現実的にはタクシーを利用せざるを得ない状況です。ただし地元新聞によれば、哈大高鉄の開通で利用が減った高速バスの余った車両を利用して、2013年5月までに空港と大連駅、大連北駅を結ぶシャトルバスが運行し、空港から駅までの荷物の運搬もスムーズに行われる計画もあるようです。また2014年7月には地下鉄が開通する見込みですので、これが完成すれば、市内からのアクセスも格段に便利になることが期待されます。

切符の購入も簡単便利

切符の購入方法は、駅窓口(24時間営業)、駅の自動券売機、ネット予約、電話予約等の様々な方法があり、ネットと電話では出発日の12日前から、駅窓口では10日前から購入が可能です。しかしネット予約は銀聯カードが必要なおえ意外と手続きが面倒なこと、電話予約は言葉の問題があることなどから、われわれ外国人にはどちらも大変です。その点、駅窓口では出発日と出発時間と座席の種類を書いた紙さえ準備しておけば、意外と簡単に購入できます。なお、ホームページでは出発時間や列車名、残りの座席数も簡単に調べることができ、とても便利です。

ところで、中国では2012年1月からダフ屋行為を排除するため鉄道乗車券の実名購入制度が導入されています。切符を購入する際は身分証(外国人の場合はパスポート)が必要で切符には身分証番号が印刷されます。改札は15分前から始まりますが、その前に本人確認のため切符に書かれた番号とパスポート番号の照合検査がありますので、時間に余裕を持って駅に到着する必要があります。

おわりに

さて、全国平均を大きく上回るスピードで経済成長を続ける中国東北三省は人口約1.1億人を擁する巨大市場としての魅力が年々増えています。今後、哈大高鉄の開通により中国東北三省の経済発展がさらに加速することが見込まれますが、大連を中心とする遼寧省進出の富山県企業にも更なるビジネスチャンスが期待されます。

また、現在運休中の富山・北京・大連便の運航が再開すれば、哈大高鉄を利用し中国東北三省を周遊する富山空港出発の観光ツアーなども実施しやすくなります。また価格面の課題はありますが、将来的に哈大高鉄を利用し瀋陽周辺地域から富山県へ中国人観光客を誘致することも考えられます。

いずれにしても、哈大高鉄の開通により、今後、富山県と中国東北地域との経済交流、観光交流が促進されることが期待されます。